



学校だより

横浜市立大鳥小学校

平成30年6月4日 発行

6月号

おおとり

【大鳥小学校Webページ】

大鳥小

検索

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ohtori/>

学校教育目標

〒231-0806 中区本牧町1-251

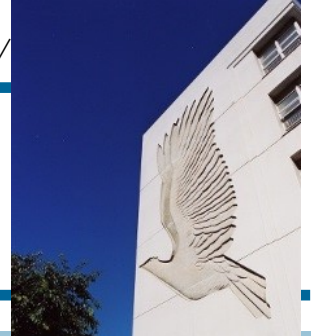
学校長 山本 浩之 TEL.621-7700

はばたく子

◆やさしい子

◆たくましい子

◆かしこい子



『よりよい食との関係をつくるために』

副校長 正木 俊行

BSFも終わり、気づけばあっという間に平成30年度も2か月が過ぎました。BSFを初めてご覧になった新入生の保護者の皆様、転入生の保護者の皆様は、あの盛り上がりで驚かれた方もいるかもしれませんが、この特別な行事を経験することで、子どもたちは大鳥小学校の一員としての意識が高まっているように感じます。地域の皆様、保護者の皆様、BSFへのご理解、ご支援、ご協力ありがとうございました。新入生もすっかり一人前の小学生という感じになってきました。

1年生と言えば、BSFのような大きな行事だけでなく、学校給食も大きな変化だったのではないのでしょうか？ お子さんは給食についてご家庭で話をしますか？ 「温かくておいしい。」「好きなメニューが出て、嬉しかった。」などの声が聴ければ、ご家庭でも一安心といったところでしょうか。

私は、小学校時代、偏食がひどく野菜がほとんど食べられませんでした。家はどちらかと言えば貧しかったので、好きなものだけ食べられたわけではなかったのですが、野菜全般の白い、歯触りがどうしてもだめでした。ですから、給食の時間はいつも憂鬱でした。因みに今では、周囲からは食べすぎと言われるくらい何でもおいしく食べられます。今となっては、小学生当時、野菜の白いや歯触りの何が嫌だったのかよく分かりません。

学校の給食の時間は指導の時間であるので、衛生面やマナー面の指導は勿論ですが、やはり食育ですので、栄養面のことはしっかりと指導していかなくてはなりません。バランスよく作られている給食をバランスよく食べること、偏食がある場合は少しでも改善できるようにすることなどを目指して指導します。そして最近では実施していないところが多いようですが、給食週間の取り組みなどで、クラスみんな協力して残食が出ないような指導をしていたこともありました。こうした活動によって食材やそれを生産してくださった方、調理してくださった方への感謝の気持ちを確認する意味もあると思います。学校では、このようにいろいろな手立てを講じて、子どもたちと食事の理想的な関係を築こうと給食指導に力を注いでいます。



1年生、はじめての給食。おいしくいただきました。

(次ページへ)

(前ページから)

担任時代、私は結構 向きになって給食を食べていました。「ほっておくと先生に給食みんな食べられちゃうぞ。」と子どもたちに思われるくらいお代わりもがんばっていました。行儀はあまりよくなかったかもしれませんが、食べるのって楽しい！ 嬉しい！ というイメージを子どもたちに率先して伝えていきたかったからです。(半分は本当にお腹が空きすぎていたのですが・・・) 自分の手ごたえとしては、この指導？ は、結構有効だったと感じています。クラスみんながおいしそうに嬉しそうに給食を食べているとそういう雰囲気促されて、いつもよりちょっと多く食べてみようかな とか 今日はこれも試しに食べてみようかな と感じる児童も少なからずいるようでした。

お子さんにとっての大鳥小学校の給食の時間はどんな時間になっているのでしょうか？ 学校では、上述のように栄養士、調理員、教師が一丸となって、各クラスの実態や一人ひとりの個性に応じながら、様々な手立てを講じて食育を進めています。私のように偏食がひどかった子どもにとっては、給食の時間は辛い時間に思えてしまうときもあるかもしれませんが、よりよい食との関係を築けるようにお子さんへの励ましの言葉をかけていただければと思います。ご家庭と共に食を楽しむ大鳥小学校の児童を育てていければと思います。